

大雨による浸水・冠水対策情報

台風7号及び8号が相次いで発生し6月26日から6月28日にかけて日本に接近する可能性があります。台風周辺地域および進路にあたる地域は暴風や大雨に注意する必要があります。以下の事項を参考に十分な大雨対策を講じてください。

1 水 稲

水稲は冠水時間が長くなるほど減収率が高くなります。水が引き次第、状況に応じた対応をしてください。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除く。
- ②分けつ期の浸・冠水は黄化萎縮病の発生を著しく助長するため、水が引いた後も水稲の様子を観察する。発病が認められた場合は薬剤の登録を確認し、可能なら防除を実施する。

2 豆 類（「紫ずきん」・「京 夏ずきん」を含む）

豆類は一般的に湿害に弱く、浸・冠水時間及び滞水時間が長くなると減収率も高くなるので、水が引き次第、速やかにうね間の排水を促し滞水時間を短くしてください。また、病害が発生しやすくなるので、必ず予防防除を行ってください。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除くとともに、うね間に滞水しないよう排水を促し、ほ場の乾燥に努める。
- ②浸冠水すると病害虫が発生しやすくなるので、直ちに予防防除を行う。茎葉に付着した泥を落とすように防除する。
- ③土壌が乾いた後、浅く耕し、通気性を確保する。
- ④雑草が多発する場合がありますので、雑草の発生状況を確認し、必要に応じて除草剤の散布を行う。

3 野菜、花き

冠水したほ場では、土壌中の酸素が欠乏するため、根の呼吸が阻害され、根腐れ、茎葉の萎凋など、さまざまな症状が発生します。以下の点に注意し、速やかに必要な対策を行ってください。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①マルチ栽培では、マルチをめくり土壌表面の乾燥を促す。

- ②退水後は直ちにほ場を清掃し、土が乾いた後、根を傷めないように浅く耕し通気性を確保する。また、排水溝を深めに整備し排水に努める。
- ③茎葉に泥の付着が多い場合、清浄な水や殺菌剤の散布により速やかに洗い流し、光合成の低下や病害の発生を防ぐ。
- ④冠水によって土壌中の窒素や加里が流亡し、葉色が薄くなり生育が緩慢になることが心配される。「根腐れ」や「しおれ」がないことを確認した後、追肥として窒素と加里を含む速効性の肥料を施用して、樹勢の回復を図る。
施用方法は、1アール当たり窒素成分で0.1～0.2 kgを5日間隔で2～3回程度、土壌表面または通路に施用する。
- ⑤果菜類では、樹勢の低下が見られる場合は、摘果と若穫りにより着果負担を軽減し、樹勢の回復を図る。また、トマトやトウガラシ類では、カルシウム欠乏による尻腐れ果の発生が心配されるため、カルシウム剤の葉面散布を5日間隔で2～3回程度行う。
- ⑥風雨による茎葉の傷からバクテリアや糸状菌が侵入し、病害が発生する恐れがあるので、殺菌剤の予防散布を行うとともに、こまめに観察し、発生初期から防除を行う。特に、疫病、軟腐病などの土壌病害の発生が多いので注意する。
- ⑦収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。
- ⑧ハウス栽培で冠水した場合には、速やかに排水に努めるとともに、強光でハウス内が高温になる場合は、遮光により昇温を抑制し、草勢の回復を図る。

5 果 樹

- ①浸水したほ場は、速やかな排水に努める。
- ②ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、適用のある農薬を確認して殺菌剤を散布する。

6 茶

(1) 茶園管理

- ①浸水した茶園は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ②激しい降雨で株元が不安定になった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③病害が発生しやすいので、適用のある農薬を確認し、治療効果のある薬剤による防除を徹底する。